

国 道 交 第 2 2 号
令和 7 年 6 月 2 0 日

協賛団体の長 あて

国土交通省道路局長
(公 印 省 略)

令和 7 年度「道路ふれあい月間」推進標語の決定について

このたびは、令和 7 年度「道路ふれあい月間」にご協賛いただき、ありがとうございます。

また、本月間の推進標語の募集に当たっては、ご協力いただきありがとうございました。御陰様で今年度は全国から 1,328 作品ものご応募をいただきました。

これらの応募作品について、令和 7 年度「道路ふれあい月間」推進標語審査懇談会の小早川悟委員（日本大学理工学部教授）、三好礼子委員（エッセイスト、元国際ラリースト）、やすみりえ委員（川柳作家）に選考いただき、最優秀賞 3 作品、優秀賞 6 作品を別添のとおり決定いたしましたので、お知らせいたします。

今後とも「道路ふれあい月間」の推進につきまして、ご理解、ご協力をお願いいたします。

令和7年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品

◆ 最優秀賞（3作品）◆

「小学生の部」

「脈々と 輝く生命（いのち）を 繋ぐ道」

なわ の の か
縄 乃々香 さん （北海道 札幌市立資生館小学校）

「中学生の部」

「この道に 人あり街あり 歴史あり」

たかいわ きょうこ
高岩 恭子 さん （福岡県 西南女学院中学校）

「一般の部」

「繋いでく あなたと歩く 道だから」

みやもと しゅうご
宮本 修吾 さん （神奈川県 神奈川県立厚木高等学校）

◎最優秀賞3作品のうち、委員が特に高評価をした「脈々と 輝く生命（いのち）を 繋ぐ道」を
今年度の代表標語とします。

◆ 優秀賞（6作品）◆

「小学生の部」

「重ねてく 思いと笑顔 この道に」

こばやし と あ
小林 叶歩 さん （新潟県 長岡市立豊田小学校）

「やさしさを 教わったのは 通学路」

たなか こういち
田中 巧一 さん （埼玉県 小川町立みどりが丘小学校）

「中学生の部」

「道！道！道！ 楽しくみんなで 歩いていこう」

あさかわ ゆう
浅川 悠 さん （佐賀県 佐賀大学教育学部附属中学校）

「「ありがとう」 ころところ つなぐ道」

うれし まさたか
嬉 正尊 さん （佐賀県 佐賀大学教育学部附属中学校）

「一般の部」

「見えてるよ 手を上げ渡る 笑顔まで」

うしろやま けんだい
後山 賢太 さん （愛知県 愛知郡東郷町）

「この道は 夢咲く 花咲く 笑顔咲く」

すずき たかこ
鈴木 貴子 さん （栃木県 宇都宮市）



令和 7 年 6 月 20 日
道路局道路交通管理課

「脈々と 輝く生命（いのち）を 繋ぐ道」

～令和 7 年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品が決定しました～

令和 7 年度「道路ふれあい月間」推進標語の入選作品（最優秀賞 3 作品、優秀賞 6 作品の計 9 作品）が決定しました。

国土交通省では、毎年 8 月を「道路ふれあい月間」として、道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等の各種活動を推進しており、この一環として、令和 7 年度「道路ふれあい月間」の推進標語を広く一般から募集した結果、全国から 1,328 作品の応募がありました。

これらの応募作品について、令和 7 年度「道路ふれあい月間」推進標語審査懇談会の小早川悟委員（日本大学理工学部教授）、三好礼子委員（エッセイスト、元国際ラリースト）、やすみりえ委員（川柳作家）の 3 名に選考いただき、[小学生の部][中学生の部][一般の部]の部門毎に、最優秀賞 1 作品と優秀賞 2 作品を決定しました。

入選作品の応募者には、国土交通省から賞状及び盾を贈呈いたします。

入選作品の標語は、令和 7 年度「道路ふれあい月間」の推進のため、幅広く活用する予定です。

※委員名は五十音順

【問い合わせ先】

道路局道路交通管理課 水上、西川

電 話 03-5253-8111（内線 37-422、37-423）

03-5253-8482（直通）



令和7年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品

◆ 最優秀賞（3作品）◆

「小学生の部」

「脈々と 輝く生命（いのち）を 繋ぐ道」

なわ の の か
縄 乃々香 さん （北海道 札幌市立資生館小学校）

「中学生の部」

「この道に 人あり街あり 歴史あり」

たかいわ きょうこ
高岩 恭子 さん （福岡県 西南女学院中学校）

「一般の部」

「繋いでく あなたと歩く 道だから」

みやもと しゅうご
宮本 修吾 さん （神奈川県 神奈川県立厚木高等学校）

◎最優秀賞3作品のうち、委員が特に高評価をした「脈々と 輝く生命（いのち）を 繋ぐ道」を
今年度の代表標語とします。

◆ 優秀賞（6作品）◆

「小学生の部」

「重ねてく 思いと笑顔 この道に」

こばやし と あ
小林 叶歩 さん （新潟県 長岡市立豊田小学校）

「やさしさを 教わったのは 通学路」

たなか こういち
田中 巧一 さん （埼玉県 小川町立みどりが丘小学校）

「中学生の部」

「道！道！道！ 楽しくみんなで 歩いていこう」

あさかわ ゆう
浅川 悠 さん （佐賀県 佐賀大学教育学部附属中学校）

「「ありがとう」 ころところ つなぐ道」

うれし まさたか
嬉 正尊 さん （佐賀県 佐賀大学教育学部附属中学校）

「一般の部」

「見えてるよ 手を上げ渡る 笑顔まで」

うしろやま けんだい
後山 賢太 さん （愛知県 愛知郡東郷町）

「この道は 夢咲く 花咲く 笑顔咲く」

すずき たかこ
鈴木 貴子 さん （栃木県 宇都宮市）

【各委員からの総合選評】

《小早川委員》



今回、はじめて標語の選定に参加させていただきました。全国から多くの応募作品が集まる中、どの作品からも道路を通じた皆さんの気持ちが伝わってきて、入選作品を選ぶのに大変苦労しました。

応募作品の中には、今の時代を反映した作品やリズムカルで楽しげな作品もあり、とても楽しませていただきました。

今回の審査懇談会を通して、私が研究対象としている道路が皆さんの生活と密接につながっていることを再認識しました。

《三好委員》



毎日ふれあう道は、家族の存在と似ています。改めて言葉にしてみると、自分でも意外なフレーズが並ぶのではないのでしょうか。今年度は、素直でさりげない（でも深くて暖かい）もの、年齢のイメージを飛び超えたもの（代表標語の「脈々と」他）、言い回しに惹きつけられたもの（中学生の部の「^{ウェイ}道！^{ウェイ}道！^{ウェイ}道！」他）が印象的でした。

農村地帯や大都会などの地域性に関わらず、朝・交差点・帰り道・ゴミなし・挨拶・寄り道・未来・歴史などは、みんなの共通テーマ。「ひとりじゃないよ いつもそばに（道が）いるよ」というものが幾つかありましたが、引っ込み思案だった幼い頃の私の友達は、まさに通学路。石ころや草と語りながら小さな勇気を重ねていったことをふと思い出しました。

決して当たり前ではない道路の存在に感謝が湧くものばかりが選ばれたと思います。たくさんの応募に感謝しつつ楽しく審査させていただきました。

《やすみ委員》



今年度も多くの魅力的な標語作品に出会うことができました。

その中から、言葉のまとまりや表現力、内容への共感性などを重視して各部門の入賞作品を決定致しました。ご覧いただくと分かるように、選ばれたどの標語も人と道のかかわりをうまく表し、その状況や場面を思い浮かべることができますね。

その中でも特に印象的に残ったのは中学生部門の優秀賞「^{ウェイ}道！^{ウェイ}道！^{ウェイ}道！楽しくみんなで歩いていこう」でしょうか。明るい雰囲気にあふれ、言葉選びがとてもユニーク。作者のセンスを活かして創りあげた標語といえるでしょう。

ぜひ今後も、皆さんそれぞれの視点や感性で標語作成に挑戦していただけたらと思います。

【各委員から最優秀賞作品へのコメント】

小学生の部 【 脈々と 輝く生命(いのち) を 繋ぐ道 】

やすみ委員 代表標語に選出された「脈々と輝く生命（いのち）を繋ぐ道」には、なんとも堂々とした風格がありますね。しっかりとした漢字表記を用いて完成されていて、言葉に力を感じます。また折しも今年の大阪・関西万博開催と重なり、「脈々と」という言葉が「ミャクミャク」を彷彿させ、面白い響きとなって伝わってきました。代表標語として広く活用されることを楽しみにしています。

優秀賞の「重ねてく思いと笑顔この道に」は、誰もが穏やかな気持ちになるようなフレーズで構成されていて作者の優しさが想像できます。

もうひとつの「やさしさを教わったのは通学路」は通学路への愛着、「やさしさ」という言葉に込められた想いを受け止めながら味わいたい標語となっています。

ご応募下さった皆さん、ありがとうございました。

中学生の部 【 この道に 人あり街あり 歴史あり 】

小早川委員 最優秀賞作品は、とてもリズムがよく、口に出して読んでみたくなる作品でした。また、最後の「歴史あり」という言葉が、とても印象に残り、色々な想像をかき立てられました。

優秀賞の「道！道！道！」を「way, way, way」と読ませる作品は、審査懇談会のメンバー全員が笑顔にさせられました。

もうひとつの優秀賞作品は「ありがとう」や「ころところ」といった言葉から優しい気持ちが伝わってきました。

選に漏れた作品にも、中学生ならではの楽しい作品がたくさんありました。

一般の部 【 繋いでく あなたと歩く 道だから 】

三好委員 最優秀賞の宮本さん（高校生）の「繋いでく」は、ロマンチックなのに潔くて美しい標語。「繋ぐ」が使われることは多いのですが、最初にもってきたのが効いていますね。一緒に歩く“あなた（好きな人？家族？すべての存在？）”には広がりがあり、「凜」として前を向く姿が浮かびます。つながりたくなる大切な人の存在、大事ですね。

優秀賞の後山さんの「見えてるよ」は、作者の心でのお声がけ。

「安心して渡ってね」という優しさが伝わってきますが、言葉の並びもリズムもいいですね。こんなほっこりした気持ちで運転すると交通安全にも繋がるなと思いますが、この作品に出会ってから私も横断歩道を渡る人の顔を思わず見てしまいます。

優秀賞の鈴木さんの「この道は」は、とても自然に作られた感じがあり、スッと入ってきました。夢や花や笑顔は「道」とよき仲間だと思いますが、鈴木さんの経験した素敵な「この道」を、垣間見たくなりました。